

平成 30 年度 事業報告

I. 法人事業報告

1. 事業の概要

順正学園は昭和 42 年に創立して以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、特色ある教育研究体制の充実に努めてまいりました。

平成 30 年度も、地域社会及び国際社会にも貢献できる学園づくりを目指し、国際交流、ボランティア活動、更にはスポーツ交流、産学官連携事業にも積極的に取り組みました。

吉備国際大学では、南あわじ志知キャンパスの地域創成農学部を農学部に変更するとともに、新たに醸造学科を開設し、1 学部 2 学科体制といたしました。九州保健福祉大学では、第三者評価として日本高等教育評価機構の平成 30 年度大学機関別認証評価を受審し、「適合」の認定を受けました。

その他、各設置校においては、中期目標・中期計画の最終年度（大学は 3 年目、専門学校は 2 年目）にあたり、建学の理念の実現に向けた様々な教育研究の取り組みが実施されました。

（設置校の取り組みの詳細については設置校の報告に掲載）

また、国内外の教育提携・高大連携にも積極的に取り組み、今年度は特に、アメリカ、ベトナム、カンボジア、カナダをはじめとして 5 校と協定を結び、海外の教育交流協定校は 28 か国 83 校 2 施設となりました。学生募集に関しましても、中国、韓国、ベトナム、インドネシア、スリランカから春入学、秋入学合わせて 92 名の留学生が入学しました。

さらに、学園 50 周年記念事業として開始した「順正デリシャスフードキッズクラブ」、「順正ジョイフルキッズクラブ」は、地域社会への貢献と同時に、学生がボランティア精神を身につける教育提供の場として、体制づくりや組織強化を行い、活動を一層充実しました。

特にデリシャスフードキッズクラブは、平成 30 年度は食糧支援事業として、岡山・宮崎両県で毎月 1 回の発送を行い、年間の延べ利用世帯数は約 1,200 世帯に上りました。学園が用意した食品（5 トン）及び、個人・企業・団体様から寄贈された米やその他の食料品（9 トン）、年間計約 14 トンを超える食料支援事業に育っています。有難いことに特に食料品の寄贈が年々、増加している状況です。

最後に、昨年度、西日本を中心に甚大な被害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨では、災害直後から延べ 1 千人を超える学生や学園関係者がボランティア活動を行い、高梁市をはじめ多くの被災者からの御礼状を頂きました。

II. 大学の概要

各設置校の入学者・学生数等の状況

単位（人）

	吉 備 国 際 大 学						九 州 保 健 福 祉 大 学				
	学部	通信学部	大学院 博士	大学院 修士 博士（前期）	通信 大学院 修士	通信大学院 博士	学部	大学院 博士	通信 学部	通信 大学院 修士	通信大学院 博士
入学者	382	6	5	10	25	0	296	1	83	5	7
編入・再入学者	13	31	—	—	—	—	6	0	47	—	—
10月入学 (編入・再入学含む)	32	—	0	6	—	—	0	—	14	—	—
5/1 学生数	1,668	124	13	35	68	6	1,695	10	576	17	20
内留学生	181	—	0	13	—	—	17	0	0	0	0
卒業者	390	22	—	—	—	—	369	0	142	—	—
修了者	—	—	3	17	32	0	—	1	—	6	2
退学者	50	7	0	0	4	0	50	3	26	3	0
満期退学者	—	—	0	—	—	—	—	0	—	—	0
除籍者	4	1	0	0	0	0	6	0	33	0	0
休学者	30	9	0	0	3	0	37	1	25	6	4
留年者	50	30	0	5	8	2	127	2	79	3	11

単位（人）

	順正高等看護福祉 専門学校	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	合 計
入学者	49	60	929
編入学者	0	0	97
10月入学 (編入・再入学含む)	0	0	52
5/1 学生数	148	206	4,951
内留学生	6	0	217
卒業者	47	67	1,037
修了者	—	—	61
退学者	12	12	167
満期退学者	—	—	0
除籍者	1	1	46
休学者	4	2	121
留年者	2	4	323

Ⅲ. 法人の概要

1. 理事・監事・評議員

(平成30年5月1日現在)

区 分	定 員	現 員			備 考
		常 勤	非常勤	計	
理 事	9～13	4	7	11	
監 事	2	1	1	2	
評議員	27～32	19	8	27	

2. 専任教職員

(平成30年5月1日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	—	8	出向者等含む
吉備国際大学	147	56	
九州保健福祉大学	122	45	
順正高等看護福祉専門学校	18	5	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	15	6	
合 計	302	120	

Ⅳ. 各事業の概要

1. 設置関係

- (1) 吉備国際大学大学院地域創成農学研究科地域創成農学専攻博士（後期）課程の設置
平成31年4月開設（平成30年8月31日認可）
- (2) 吉備国際大学留学生別科の設置
平成31年4月開設（平成30年11月届出受理）
- (3) 入学定員及び収容定員の充足状況等を検証し、平成30年度中に以下の報告を行った。
 - ・吉備国際大学社会福祉学研究科修士課程の募集停止及び廃止
 - ・吉備国際大学（通信制）社会福祉学研究科修士課程の募集停止
 - ・吉備国際大学心理学研究科臨床心理学専攻修士課程の募集停止
 - ・吉備国際大学保健医療福祉学部社会福祉学科の募集停止
 - ・九州保健福祉大学保健科学部視機能療法学科の募集停止

2. 入試・広報活動

(1) 入試関係

2019. 5. 1 (現在)

ア 志願者・入学者の状況

(単位 人)

区分	設置校	志願者	入学者	入学定員	充足率
一年次	吉備国際大学	932	428	540	79.3%
	九州保健福祉大学	796	251	400	62.8%
	順正高等看護福祉専門学校	55	40	100	40.0%
	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	121	65	60	108.3%
	計	1,904	787	1,100	71.3%
編入学	吉備国際大学	27	20	14	142.9%
	九州保健福祉大学	4	4	10	40.0%
	計	31	24	24	100.0%
大学院	吉備国際大学	21	19	48	39.6%
	九州保健福祉大学	0	0	4	0.0%
	計	21	19	52	36.5%
(通信) 大学院	吉備国際大学	31	29	65	44.6%
	九州保健福祉大学	26	23	35	65.7%
	計	57	52	100	52.0%
合計		2,013	879	1,276	68.9%

イ 設置校別の受験・合格・入学の状況

(ア) 吉備国際大学

(単位 人)

学部	社会科	保健医療福祉	心理	農	アニメ	外国語	合計
入学定員	160	180	90	90	40	50	610
志願者数	194 (47)	294 (162)	120 (52)	180 (45)	43 (14)	101 (54)	932 (374)
受験者数	192 (46)	282 (158)	118 (51)	172 (44)	42 (14)	96 (52)	902 (365)
合格者数	189 (46)	276 (156)	115 (51)	160 (44)	42 (14)	95 (52)	887 (361)
入学者数	136 (28)	78 (41)	57 (24)	61 (16)	33 (12)	53 (29)	428 (150)

() は女子内数

(イ) 九州保健福祉大学

(単位 人)

学 部	社会福祉	保健科	薬	生命医科	合計
入学定員	80	120	140	60	400
志願者数	123 (51)	106 (49)	414 (247)	153 (117)	796 (464)
受験者数	122 (51)	105 (49)	406 (240)	150 (114)	783 (454)
合格者数	119 (51)	102 (48)	389 (230)	141 (107)	750 (436)
入学者数	60 (20)	42 (22)	108 (63)	41 (31)	251 (136)

() は女子内数

(ウ) 順正高等看護福祉専門学校

(単位 人)

学 科	看護科	介護福祉学科	合計
入学定員	60	40	100
志願者数	48 (14)	7 (2)	55 (16)
受験者数	45 (12)	7 (2)	52 (14)
合格者数	44 (12)	7 (2)	51 (14)
入学者数	33 (10)	7 (2)	40 (12)

() は男子内数

(エ) 九州保健福祉大学総合医療専門学校

(単位 人)

学 科	看護	合計
入学定員	60	60
志願者数	121 (18)	121 (18)
受験者数	117 (18)	117 (18)
合格者数	90 (10)	90 (10)
入学者数	65 (8)	65 (8)

() は男子内数

(2) 広報関係

ア オープンキャンパス

設 置 校	開催回数	参加人数
吉 備 国 際 大 学	8	1,398
九 州 保 健 福 祉 大 学	3	1,031
順正高等看護福祉専門学校	8	123
九州保健福祉大学総合医療専門学校	3	141

イ その他

(ア) 学園（各設置校）の魅力と入試情報の発信

年間を通じて、高等学校訪問、進学説明会、などに取り組み、学園（各設置校）の魅力学科改編に関する情報、入試要項など学生募集に関する情報を受験生、保護者、進路関係者などに周知した。

(イ) 海外留学生の確保

海外支局長が中心となり、中国・韓国・インドネシア・ベトナム・スリランカなどからの留学生の確保に積極的に取り組んだ。

その結果本学園における平成 31 年度各設置校の留学生の入学状況は次のようになった。

入学者状況 平成 30 年度秋学期 (単位 人)

設置校	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	大学院	合 計
吉備国際大学	19(17)	4(2)	9(9)	0(0)			6(5)	38(33)

※ () 数字は支局長推薦入学者数

入学者状況 平成 31 年度春学期 (単位 人)

設置校	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	大学院	合 計
吉備国際大学	58(54)	11(11)	1(1)	0(0)			3(2)	73(68)
吉備国留学生別科	44(40)							
九州保健福祉大学	6(6)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	6(6)
順正高等看護福祉専門学校	5(5)	0(0)						5(5)
合 計	113(105)	11(11)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	3(2)	84(79)

※ () 数字は支局長推薦入学者数
留学生別科は入国管理の審査待ち 11 名を含む

3. ボランティアセンター

(1) 吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ (DFK) クラブ】

○順正DFKクラブによる食料支援

- ・岡山で日本最初の孤児院を設立した石井十次が唱えた「満腹主義」の精神に基づき、生活困窮世帯の子ども達にお腹いっぱい食べさせることを目的に実施します。行政機関からの要請等により、岡山県内（高梁市・岡山市・倉敷市・総社市）及び宮崎県内（延岡市・宮崎市・日向市・高鍋町・門川町）に居住する、0～15歳の中학생以下の子どもを養育する生活困窮世帯を対象に、月1回、主食・副食・嗜好品を取り混ぜた食料の支援を行います。支援食料は学園が中心となって購入するほか、企業・団体・個人から、外箱の破損、返品、防災品の入れ替え等により、商品として流通しなくなったもの等を無償で寄付していただき確保していきます。（平成31年3月末現在、101世帯が利用中。年度中の延べ利用世帯数は1,159世帯。順正学園が購入した食料品（計4820.48kg、計2,237,855円）をはじめ、企業・団体等から寄贈された米やその他食料品（計9167.37kg、1kgあたり600円で換算～計5,500,422円相当）などを、計12回、12654.7kgを配送しています）

- ・発送作業は主に職員と学生ボランティアが従事します。配送日までの合間は、学生たちとともに精米や袋詰め、段ボール箱の組み立て、賞味期限のチェックなどにあたります。(フードドライブも平成30年12月～平成31年1月に、高梁市をはじめ総社市などのスーパーマーケット等で実施しました。)

②災害復興支援セクション

○平成30年7月・西日本豪雨災害に伴う災害復興ボランティア活動の実施

◆平成30年7月6～7日発災直後からの動き

①順正学園ボランティアセンター(以下、学園ボラセン)は、高梁市内で大きな災害が発生した際、高梁市社会福祉協議会が中心となって立ち上げる『高梁市災害ボランティアセンター(以下、災害ボラセン)』に合流して活動を行うことを、以前より高梁市や市社協との協議の中で定めています。今回のケースでも、この取り決めに従い、市社協が7月9日(月)に災害ボラセンを立ち上げ、学園ボラセンも早速合流しました。その際、学園ボラセンで災害時用に保管していた資機材(ヘルメット×19、長靴×23、スコップ×18、軍手500組以上。軍手のみ寄贈)を災害ボラセンに貸し出しました。

②学園ボラセンから人員として、センター員の長檜と藤原(学生部)の2名が災害ボラセンに合流。学生ボランティアらの受付のほか、学園車(学園ボラセン用ボンゴ)を使用して、ボランティア現場へ人員車輸送を行いました。同じくセンター員の吉井は、学園ボラセン事務局での対応にあたり、井勝教授は実際に現場に入って復旧作業に当たっていただきました。

③学生ボランティアらへの熱中症対策として、学園ボラセンが麦茶240本を購入し災害ボラセンへ寄贈しました。学生ボランティアらへ配布し、身体の安全も考慮しています。学園ボラセンが取り組む順正DFKクラブの関係団体等からも、ボランティア用の飲料水を寄附して頂き、それらも同様に災害ボラセンに提供しました。

④高梁市内で復旧作業などのボランティア活動に従事している学生ボランティアは、災害ボラセンが立ち上がった7月9日(月)に約60名、10日(火)約120名、11日(水)約120名。初日の3日間の合計で延べ約300名の学生が参加しました。実際には、災害ボラセンが立ち上がる前日の8日(日)にも高梁市内で数十名の学生ボランティアが参加していることが確認されています。その後も、数に増減はありますが、一定数の学生がボランティアとして参加しています。(高梁市社会福祉協議会の資料によると、平成30年7月末までに延べ1000名の学生が参加したと推計されます)

⑤主な参加学生は、シャルム女子サッカー部、男子サッカー部、硬式野球部、フットサル部等各種運動部会の学生、ボランティアセンター学生スタッフ、その他吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校の一般学生らが中心。ボランティアに向かった被災地区は、主に高梁市落合町地区、玉川地区、広瀬地区、川面地区、中井地区、高倉地区、成羽地区の一部など。活動内容は、家財道具の運び出しや泥のかき出し、清掃洗浄作業など。

⑥ボランティアに参加する学生には、必ず最寄りの災害ボラセン(または社会福祉協議会)を通じて参加し、ボランティア保険に加入することを徹底して指導しました。

◆7月下旬から現在にかけての動きと関連活動

- ⑦被災者支援の一環として、高梁市・岡山市・延岡市・宮崎市内等の各所で、学生スタッフや学生ボランティアが中心となり、西日本豪雨災害の被災者救援のための街頭募金活動を実施しました。高梁・岡山市内では7～9月の間、毎月1回ずつ、学生が自主的に街頭募金活動を実施。合計12万1,879円の善意の浄財を頂き、集まった募金は高梁市役所に災害義援金として寄付しました。
- ⑧順正DFKクラブで倉敷市とも協定を結んでおり協力体制にあることから、高梁市の災害復旧活動がある程度落ち着いた7月下旬から11月中旬にかけて、毎週1回程度、最も被害が大きかった倉敷市真備町地区に入り、ボランティア活動を実施しました。11月11日現在、計10回実施し、計延べ53名の学生スタッフらが活動に参加しています。
- ⑨職員であるボランティアコーディネーター同士のつながりから、京都産業大学との合同ボランティア活動が実現しました。11月10日・11日の2日間、京都産業大学の学生ら19名と吉備国際大学の学生ら18名が、真備町の被災地に出向き、災害ボランティアセンターを通じた活動に汗を流しました。
- ⑩西日本豪雨災害の関連ボランティアとして11月17日、順正学園ボランティアセンターのメンバーが中心となって、高梁市で最も被害が大きかった玉川地域の約40世帯を訪問し、悪質商法等の被害防止をチラシで訴え、被災者の傾聴ボランティア活動を実施しています。
- ⑪11月17日、岡山大学で開かれた、大学コンソーシアム岡山主催の「西日本豪雨災害 学生ボランティア報告会」に参加。岡山県内の計11大学の17個人・団体が集まり、西日本豪雨災害関連のボランティア活動について4会場で発表しました。順正学園ボランティアセンターからは、学生スタッフ2名が参加し、高梁市や倉敷市真備町で行ってきた活動について詳しく発表してきました。
- ⑫平成31年1月27日（日）には、順正学園ボランティアセンターが毎年企画している「ボランティア実践発表シンポジウム」で、学生スタッフリーダーが災害復興支援ボランティア活動の取り組みなどについて発表しました。
- ⑬平成31年3月12日（火）には、倉敷市社会福祉協議会主催の「災害支援フォーラム」に職員、学生スタッフリーダーが参加。倉敷市災害ボラセンの取り組みや今後の支援の在り方について、基調講演や分科会で意見を交わした。
- 東日本大震災・熊本地震被災者支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中）
- 有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施（上記⑦、西日本豪雨災害に伴う災害復興ボランティア活動で実施）
- 災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催（上記⑪⑫⑬、西日本豪雨災害に伴う災害復興ボランティア活動で実施）
- 災害ボランティアセンター設置・運営訓練等の開催（上記①～⑥、西日本豪雨災害に伴う災害復興ボランティア活動で実施）
- 備蓄物資仕分けボランティアの実施（公設国際貢献大学校）（未実施。有事の際には開催）

- 調査、研究の実施
- ③地域貢献セクション
 - 高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施
 - ・本町地区「町家通りのひな祭り」(4/7・8、高梁市本町地域で実施)
 - ・栄町商店街への活動支援(わくわく子どもフェスタ 21、手作り遊び教室)(6/16、高梁市栄町商店街でわくわく子どもフェスタ 21 に参加。毎月第 2 土曜日、同所にて手作り遊び教室を実施)
 - ・「わっしょい高梁!!のびのびサロン」の開催(本年度は H30/5/20、H31/3/23 吉備中央町大和地区で、H31/3/10 中学生と合同で高梁市立図書館にて開催) 等
 - 教務課と連携した授業としての地域貢献ボランティア活動への協力(教務課の実施する授業に協力)
 - 地域貢献ボランティアフォーラム(第 19 回ボランティア実践発表シンポジウム)の開催(H31/1/27(日)、吉備国際大学国際交流会館他で開催)
 - 要請組織へのボランティアの派遣(随時実施)
 - 清掃活動や小学生ら登下校時の声かけ運動(毎週月曜日、ももパト隊として実施)
 - 平成 21 年から、毎年 6 月に行われている「6.26 ヤング街頭キャンペーン(薬物乱用防止活動)」に積極的に参加し、高梁市内の高校生らに対して啓発活動を行うなど、薬物乱用防止の意識向上に大きく貢献した功績が認められ、岡山県備北保健所より同保健所長表彰を受けました。
- ④国際貢献セクション
 - 国際協力ボランティア活動の実施検討
 - ・岡山発国際貢献推進協議会との連携による各種活動(随時実施)
- ⑤障がい学生支援セクション
 - 聴覚障がいをもつ学生(2名)に対する授業時のノートテイク実施(遠隔システムを利用したノートテイクの導入)(春・秋学期~1 週あたり 1 講義で実施。いずれも増減あり。1 講義につき、原則 2 名のノートテイクを配置。聴覚障がいをもつ学生 1 名は 4 年生で、実習等が多かったため導入無し)
 - ノートテイク支援に関する業務(入学宣誓式・学位授与式など学内行事で実施)
 - ノートテイク養成講座の開催(希望者に対して随時開催)
 - 「ICT を活用した情報保障の高度化についての研究」の実施(随時実施中)
 - 障がい学生支援に関する情報収集と他機関、他大学との連携を強化(随時実施中)
- ⑥活動支援
 - 関係機関・団体との連携
 - ・岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター(ゆうあいセンター)、県内他大学ボランティアセンターとの連携を強化(学生スタッフ独自の研修合宿、交流会等の開催を中心に実施。岡山理科大学科学ボランティアセンターとの相互訪問及び、他大学の学生スタッフとの交流会の実施等)
 - ・全国のボランティアセンターとの交流・セミナーへの参加(9/4.5、大阪市内での大学ボランティアセンター学生スタッフセミナーに参加。11 月、京都産業大学ボランティアセンターと合同で西日本豪雨災害ボランティア活動を実施。同月、北九州市立大学を訪問し、四国・九州の 4 大学と地域活動に携わる学生の集いに参加。2019 年 2 月 12~14 日、大阪市内で開催される大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナーに参加すると同時に、同志社大学・京都産業大学ボランティアセンターの学生スタッフと交流)

- ・ 高大連携校との連携を強化（シンポジウムやサロン活動などで連携）
- ・ 高梁市、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト等との連携を強化（2019年2月9日、国際ソロプチミスト高梁との交流会実施。DFK関連で、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストから寄付・寄贈をいただくとともに、作業のボランティアでも連携）
- ・ 吉備国際大学ボランティアプレート（KVP）における学内ボランティア団体との連携を強化（随時連携）
- ・ 順正DFKクラブとして、県内及び全国規模のフードバンク団体・協議会等との連携を強化（随時連携）

⑦ 広報・啓発

- 広報誌の発行（4月、新入生歓迎特別号、DFKクラブ平成29年度活動状況報告書を発行）
- HP、facebook等による情報発信
 順正DFKクラブHP <http://volcen.kiui.ac.jp/jei-dfk/>
 順正学園ボランティアセンターHP <http://volcen.kiui.ac.jp/index.html>
 同 Facebook <https://www.facebook.com/jei.volcen/> を随時更新中である。

(2) 九州保健福祉大学・九州保健福祉大学総合医療専門学校

① 子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズクラブ（DFK）】

引き続きフードドライブを実施する。

フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行った。

【順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）】

昨年度は18回実施したが、今年度は20回の実施を計画している。また、学生ボランティアや教職員ボランティアの確保など実施体制の強化を図り、継続可能な実施体制づくりを行う。

延岡市委託事業「ひとり親家庭等学習支援事業」として、貧困家庭の中学生に対し、月2回、土曜日に本学会場にて、本学の学生ボランティアと共に、午前中は学習支援を行い、午後から調理実習と昼食会を開催した。28名の中学生が登録しており、今年度は18回を実施し、毎回約12～15名の中学生が参加した。

② 地域貢献セクション

ボランティア要請に基づき、地域の各行事に学生を派遣した。

各所から要請のあったボランティアに対し、学内で募集を行い、学生を派遣した。大学共通基礎科目に開設する「ボランティア活動」科目の履修登録者は50名で、延べ701名が参加した。

③ 障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

学生課:障がいを理由に駐車許可申請を行った学生に対して最優先に許可を行った。また、障がいの度合いによっては講義棟の近くに駐車できるよう配慮を行った。

4. 国際交流関係（協定以外は留学生課）

A. 教育交流協定の締結

1. 2018年5月11日 アメリカ フィラデルフィア・コミュニティ・カレッジと教育交流協定締結
2. 2018年7月17日 ベトナム ドンア大学と教育交流協定締結
3. 2019年1月21日 カンボジア サマレアブ高等学校と教育交流協定締結
4. 2019年1月21日 カンボジア ヘンサムリン・プレイロベア高等学校と教育交流協定を締結
5. 2019年3月13日 カナダ オカナガン・カレッジと教育交流協定締結

B. 覚書の締結

1. 2018年10月4日 吉備国際大学・ロシア国立アカデミー人文大学
ダブルディグリー・プログラムに関する覚書締結

C. 教育交流協定校への学生派遣

1) -1 短期研修

大学名	期 間
台湾——南台科技大学	2018年8月12日(日)～2018年8月25日(土) 吉備1名
韓国——湖西大学	2018年8月中旬から派遣予定 2名
イタリア——ボローニャ大学	2019年3月17日(日)～2019年3月28日(木) 九保 2名
フィリピン——国立大学ロスバニョス校	2018年9月中旬から派遣予定（九保大のみ）

1) -2短期研修(吉備国際大学外国語学部のみ)

派遣先	期 間	人 数
米国——フォックスバレー大学	2018年7月～2018年8月	—4名
ベトナム——Quy Khanh 日本語学校	2018年8月～2018年9月	—1名
カンボジア——CJCC	2018年8月～2018年9月	—1名
フィリピン——テレネット	2018年8月～2018年9月	—3名
オーストリア——SVホルン	2018年8月～2018年9月	—1名

2) -1 短期留学

大学名	期 間	人 数
米国——フィンドリー大学	2017年8月～1年間	吉備国際大学 1名 派遣済
	2018年8月～2018年12月	吉備国際大学 1名 派遣済
台湾——南台科技大学	2018年9月～2019年1月	吉備国際大学 1名 派遣済

2) - 2 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人 数
米国 フォックスバレーテクニカルカレッジ	2018年7月～2018年8月	4名 派遣済
米国 ニュージャージーシティ大学	2018年8月～2018年10月 2019年1月～2019年3月	1名 派遣済 1名 派遣済
米国 フィンドリー大学	2018年8月～2018年12月	1名 派遣済
米国 ハワイ大学ヒロ校	2018年8月～2018年12月	1名
カナダ ニューカレドニア大学	2018年8月～2018年12月 2018年9月～2018年12月	1名 派遣済 1名 派遣済
カナダ モホークカレッジ	2018年6月～2018年8月	2名 派遣済
フィリピン タカハリ+テレネット	2018年8月～2018年10月	1名 派遣済
フィリピン テレネット+3Dアカデミー	2019年2月～2019年3月	1名 派遣済

3) 短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人 数
米国 フィンドリー大学	2018年8月～2018年12月	1名
米国 ニュージャージーシティ大学	2018年8月～2018年12月	1名
米国 ライト大学	2019年1月～2019年5月	1名
米国 オハイオ州立ライト大学	2017年12月～2018年5月	2名 派遣済
カナダ モホークカレッジ	2018年7月～2018年8月	1名
カナダ ニューカレドニア大学	2018年9月～2018年12月	2名
イギリス サンダーランド大学	2019年1月～2019年5月	1名
スペイン サンジョージ大学	2018年8月～2018年12月	2名
ロシア シャウレイ大学	2018年2月～2018年6月 2018年8月～2018年12月 2019年2月～2019年6月	2名 派遣済 1名 派遣済 2名 派遣中
台湾 致理科技大学	2018年2月～2018年6月	3名 派遣済
台湾 実践大学	2018年9月～2019年1月 2019年2月～2019年6月	1名 派遣済 1名 派遣中
韓国 釜山外国語大学	2018年2月～2018年6月 2018年9月～2018年12月	2名 派遣済 1名 派遣済

D. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期研修

大 学 名	期 間	人数
米国 フィラデルフィア・コミュニテイカレッジ	2018年5月25日(金)・26日(土)	12名 受入済
米国 フィンドリー大学	2018年6月18日(月)～ 2018年6月25日(月)	5名 受入済
カナダ ニューカレドニア大学		2名 受入済
イタリア ボローニャ大学 他	2018年7月22日(日)～ 2018年7月29日(日)	7名 受入済
フィリピン 国立大学ロスバニョス校	2019年2月～2週間予定	2名

2) 短期留学 (吉備国際大学のみ)

大 学 名	期 間	人数
台湾 南台科技大学	2018年10月～1年間	1名 受入中
タイ サイアム大学	2018年10月～1年間	1名 受入中

2) 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大 学 名	期 間	人数
米国 ニュージャージーシティ大学	2018年10月～1年間	1名 受入中
メキシコ バハカリフォルニア自治大学	2018年4月～半年間	1名 受入済
台湾 実践大学	2018年4月～半年間 2018年10月～半年間	2名 受入済 2名 受入中
台湾 致理科技大学	2018年10月～半年間	1名 受入済
韓国 釜山外国語大学	2018年4月～1年間	1名 受入済
ベトナム ハノイ貿易大学	2018年10月～半年間	1名 受入済

5. 施設設備関係

30年度の主な施設・設備関係は下記のとおりです。

【主な施設・設備関係一覧】

500万円以上の事業（修繕工事を含む）

法人本部	順正学園高梁キャンパス大学1号館等解体撤去工事	95,000(千円)
吉備国際大学	2号館エレベーター改修工事	14,500(千円)
	3次元動作解析装置更新 (私立大学等研究設備整備費補助金)	7,508(千円)
九州保健福祉大学	空調設備更新工事(3号棟・図書館事務室系統)	59,850(千円)
	小動物用デジタルX線画像診断システム (私立大学等研究設備整備費補助金)	14,990(千円)

I. 平成30年度教学基本方針

吉備国際大学は、「中期目標・中期計画」の第3年度最終年の目標・計画の達成を目指し、教育、研究および社会貢献活動の一層の活性化に努める。また、

私立大学研究ブランディング事業第2年度計画を着実に遂行しブランディング発信を強化する。特に、次のことを今年度の基本方針とする。

- (1) 学部・学科および研究科は、3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の実践に努め、中期目標・中期計画を確実に実行し、地域創成に実践的に役立つ人材の養成を行う。
- (2) 国家試験合格率および就職率100%および退学者ゼロを目指し、教職員一丸となり改善改革策を実行する。学生の目線に立った「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視して創意工夫を凝らした」指導に徹する。
- (3) 私立大学研究ブランディング事業「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」の研究活動およびブランディング活動を着実に実行する。また、「地（知）の拠点整備事業」を引き継ぐ事業計画を定め、地域連携研究課題に取り組み、全学的にブランド力の発信に努める。
- (4) 魅力あるカリキュラムへの再編を進めるため、教養科目について、社会人基礎力の養成と本学独自の特色あるカリキュラム構成へ検討を始めるとともに、あわせて法改正等に伴う看護学科、理学療法学科、作業療法学科の専門教育科目のカリキュラム変更の準備を行い、平成32年度の変更を目指す。
- (5) 学生が安心して学修できる環境を維持管理するため、安全・危機管理、ハラスメント防止およびコンプライアンス遵守対策に努める。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 懇切丁寧な学修支援体制により、退学者の減少を図る。

①新入生および在学生のオリエンテーション内容の充実を図るとともに、教務課において卒業要件や資格取得要件充足のチェックをし、教員に情報提供を行うことで履修指導を徹底し、卒業要件や資格取得要件を確実に満たせるよう指導する。

⇒春学期履修登録終了後、卒業見込み判定を行い、卒業見込みがたっていない学生に関する情報提供を各学科に行い、履修指導を依頼した。また秋学期履修登録終了後には、全学生の単位修得状況一覧表を提供するとともに、教員免許状取得に必要な単位修得状況についても確認を行い、卒業や資格取得の要件をもれなく満たすための指導体制をとった。

②「GPA 制度に関する規程の運用方法」に基づき、成績不振学生をリストアップし、保護者面談など保護者と連携しながら、一人ひとりに懇切丁寧な学修指導を継続的に行う。1年間の学年 GPA データにより検証を行い、成績の向上を図る。

⇒年度当初にG P Aにより成績不振学生をリストアップし、学科ごとに対象学生に対し、保護

者面談などの対応を行った。秋学期当初には春学期の成績を確認し、指導を継続して行った。その結果、約半数の学生については学年GPAが上昇し、改善傾向がみられたが、逆にGPAがさらに下がり、退学に至る学生も多く、今後も継続して指導していく必要がある。(2019年5月の学務代議員教授会報告)

③基礎学力の向上を目的に、「キャリア開発Ⅰ」で導入する「K I U I ドリル」の円滑な実施や、ラーニングサポートセンターでの学修支援の取組を新たに実施する。

⇒1年生春学期の必修科目である「キャリア開発Ⅰ」において導入した「K I U I ドリル」は、キャリアサポートセンターを中心に担当教員と連携を図りながら円滑に実施することができた。また、2019年度入学生から新たに、「K I U I ドリル」を入学前教育としても導入し、「キャリア開発Ⅰ」と合わせて1年間の基礎学力向上の学習コンテンツとして位置付けることとした。

またラーニングサポートセンターの新たな取り組みとしては、「1,2年生ファースト事業」としてOBOG講座の実施、「笑顔になる空間づくり」として“スマイル・プロジェクト”の企画、「ニーズサポート事業」として資格対策講座や留学生のための漢字対策講座などを実施した。

④学修環境の整備の実施

アクティブラーニングやグループワーク、プレゼンテーションが可能な可動式机・椅子、A/V機器を備えた教室や演習室の整備を検討するとともに、グループ学修や予習復習のための施設確保と開館時間延長など、学修時間を増加し学修能力の向上を図るために、学修環境の整備を実施する。

⇒情報処理室のパソコンについて、全学的にシンクライアント化し、処理速度を早くするとともに、Windows10にアップグレードした。また学生が予習・復習などに利用しているラーニングサポートセンターの貸出用パソコンの入れ替えを行い、試験期間中の開館時間延長を行った。

(2) 魅力あるカリキュラムへ再編の検討を進め、教育における学生の満足度向上を図る。

①社会人基礎力の養成と本学独自の特色あるカリキュラム構成を打ち出すため、教養科目再編の検討を始める。またあわせて、法改正等に伴う看護学科・理学療法学科・作業療法学科について専門教育科目のカリキュラム変更の準備を行い、平成32年度の変更を目指す。

⇒看護学科、理学療法学科、作業療法学科の専門教育科目のカリキュラム変更については、各学科において法改正やコアカリキュラムへの対応について検討を進めている。理学療法学科、作業療法学科については計画通り令和元年9月末に変更承認申請を行う予定である。教養科目については3月に第1回の検討会議を開催し、再編へ向け検討を開始した。

②平成29年度より外国学科を除くすべての学科で導入された「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」について、さらなる内容の充実を図る。特に地域貢献ボランティア活動については、看護学科、理学療法学科、作業療法学科が今年度より初めての実施となることから、ボランティア活動の受け入れ先および担当教員、学生と綿密に連携を図り、実りあるボランティア活動が実施できるように支援する。また平成30年度から外国学科も「地域学概論」がスタートすることから、岡山市や地域の各種団体に協力を要請し、円滑に実施する。

⇒「地域学概論」については、地元高梁市や南あわじ市、その他の各団体などの協力を得て円

滑に実施した。外国語学部についても昨年度より岡山市や地域の団体などの協力を得てスタートした。「地域貢献ボランティア」は高梁キャンパスで西日本豪雨災害の影響でイベントの中止が相次ぎ、ボランティア活動の予定変更を余儀なくされる事例が多くあったが、教務課と担当教員が連携しきめ細かな指導により、全員が必要時間を確保できた。

- (3) 国家試験等対策に全学的に取り組み、全ての国家試験の合格率を全国平均以上とする。また教員採用試験についても、教職センターを中心にデータの分析や学生への情報提供を積極的に行い、対策講座の実施などにより合格者の増を図る。

⇒学科ごとに国家試験対策として模試の実施や補習を実施し、学生一人一人に丁寧な指導を行った。また、大学全体では、国家試験勉強に集中できるように演習室の確保やラーニングサポートセンターや図書館の開館時間の延長を行ったが、結果としては、合格率が大きく全国平均を下回る資格もあり、指導方針について抜本的な見直しが必要である。

- (4) 留学生の教育指導体制の充実を図り、日本語能力試験N2の合格率をさらに向上させる。

⇒N2を取得していない留学生のために、日本語関連科目Iの授業では能力別のクラス編成にし、徹底したN2対策の授業を実施した。留学生にもN2に必ず合格しなければならないという意識が根付いてきており日本語の学修意欲も向上してきている。また必ず日本語能力試験を受験するよう指導し、未手続者をチェックし、チューターやゼミ担当教員、留学生課から受験するよう指導した。

さらに、非漢字圏の東南アジアからの留学生が増えていることから、漢字対策を授業の中で取り入れ、ラーニングサポートセンターでは「日本語かけこみてら」として、日本人学生による漢字対策講座を2019年度から開講することとした。

- (5) 教育関連情報データの収集と分析（IR）

GPA データや履修状況データの定期的な提供、教職関連実績データの整備などを積極的に行い、教員の履修指導をサポートする。また、学園IR推進室と連携し、収集したデータを整理し、学生や教職員に情報提供できるように検討していく。

⇒成績不振者のGPAデータは、定期的に各学科に情報提供し、退学者対策に役立てている。また履修状況データについては、昨年度から一覧表を学科にデータ提供し、卒業や資格取得要件に必要な単位の履修ミスがないよう、履修指導に活用できる体制とした。

2. 通信教育関係

- (1) 効率的な募集活動を実施し入学者数の増加を図る。

①入学説明会の会場を増やしたことについての広報を効果的に行い、説明会への来場者増加を目指す。

⇒岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、広島市（広島県）、高松市（香川県）、福山市（広島県）、松江市（島根県）、津山市（岡山県）で入学説明会を行った。また、私立大学通信教育協会の合同入学説明会において、東京会場、名古屋会場、大阪会場、岡山会場、福岡会場へ参加をして、広域的に募集活動を行った。

②入学生アンケートによるとインターネットを経由して入学してくる学生が多いことから、昨年度に引き続きインターネット広告、特にリスティングを中心に広報を行う。また、タウン情報誌とwebタウン情報誌のセットによる広告により、幅広いターゲットから入学説明会

への参加者増を目指す。

⇒岡山県内の電車中刷り広告、広島市内の駅構内の広告、バスセンターへの広告、広島県、香川県、岡山県、島根県・鳥取県のタウン情報誌への広告、インターネット広告、リスティング広告について広報を行った。

③岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、広島、高松、福山、島根で入学説明会を行う。

⇒岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、広島、高松、福山、島根に加え、津山市での入学説明会も行い、同時に通学制の説明会も併せて実施し、教員との共同で説明会を行ったが、通学制の説明会参加者は居なかった。

④入試広報室と連携して、高校訪問の際に通信教育のパンフレットを配付し、大学に通信教育があることを認知してもらうことで、1年生からの入学生を増やす。

⇒入試広報室と連携して、高校訪問にリーフレットを渡してもらい、1年次の入学者が増加した。また、新たに株式会社ミツバファクトリー・日本リラクゼーション業協同組合との提携を結び、社会人の入学者確保を目指すこととした。

(2) 学生の満足度を向上させることで退学者を出さない体制を構築する。

①学修相談会で参加者が多かった岡山会場の回数を増やして岡山・広島会場の2会場で開催する。高梁会場については随時受けることにより、学生満足度を向上させる。

⇒学修相談会の開催について見直しを行い、3月に岡山会場について2日間、広島会場について1日間、高梁会場については随時実施した結果、昨年度より多くの参加者があり、好評を得た。

②教員と事務職員が協働で、より丁寧な学生対応を行うことにより、学生満足度を向上させる。

⇒教員のメールアドレスや研究室の電話番号も公開し、学生が気軽に質問があれば出来るようにした。届いた質問については、内容により教員と事務とが相談し、回答するようにするとともに、アンケートで要望が出ていた就職支援について、新たにキャリアサポートセンターと協力し、就職に関する情報をWEB学修支援システムより提供した。また、次年度より就職支援についても協力して行うことになった。

③教員免許状を取得し、さらに教員採用試験に合格するために対策講座などを充実させる。

⇒教職センターと協力し、教員採用試験対策講座を前期1回、後期1回の計2回行い、昨年より多くの参加者があった。

3. 研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

(1) リサーチパーク研究発表会などによる県内での研究連携を推進する。

⇒リサーチパーク研究発表会で発表を行った。さらに岡山県が進めているおかやま生体信号研究会例会において河村が筋電図に関する講演を行った。

(2) 共同研究費を効果的に配分し科学研究費の新規採択件数を10件以上に増やす。

⇒科学研究費の新規採択件数は7件であった。

(3) 文科省補助金「私立大学等改革総合支援事業 タイプ5（産業界・他大学等との連携、地域におけるプラットフォーム形成）」の獲得のために自治体・産業界・他大学等との連携協定

を結ぶなどの対策を進める。

⇒昨年に引き続き岡山大学と研究用設備・機器の共同利用に関わる協定を結ぶために、学内規定の制定作業を継続している。

(4) 大学院組織(通学制5+通信制5+研究所3)の連携強化と教育研究活動の活性化のために、附属研究所を活用し、吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催する。

⇒吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを大学院説明会と同時開催した。

(5) 文部科学省から示された新しい指針の学内周知と教育研修としてコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施する。

⇒コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施した。

(6) JSTの教員研究業績登録システム researchmap に全教員の教育研究業績を9月末と3月末に登録する。博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開する。

⇒全教員の教育研究業績を9月末と3月末に登録し、博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開した。

4. 就職・進路指導計画

1) 就職目標 100%

・学生の卒業後の進路希望について全学生を把握し、各学科および学外就職関連各所との連携、情報収集・共有等により、第一希望の進路が決定できるよう各学生に応じた的確なサポートを行う。

⇒平成30年度就職率 97%

キャリアサポート委員との連携により、各学科の進路希望状況および就職内定・決定状況を早期に把握することで各学生に応じた的確なサポートを行うことができた。国家試験合格に向けて不安を抱え、本格的な就職活動が合格発表後になることが想定された学生については、事前に関係学科と密接に連携を図り個別支援にあたった。また、就職意欲が低い学生については、保護者とも連絡を取ることで学生個々の状況を把握し支援に務めたが、複数の学生が年度内に就職を決定することができず、平成30年度就職率(就職希望者に占める就職決定者の割合)は97%であった。就職未決定者については卒業後も本人・保護者と連絡を取り合い、年度を越えてサポートを継続している。

(2) 卒業者数に占める就職希望者数の割合目標 90%以上

・大学へ進学した目的をキャリア開発等の講義を通して明確にし、学生のキャリア意識を高めることで就職への意欲を持たせる。留学生へのサポートを強化し、特に帰国希望者の状況把握、個別指導に注力する。

⇒平成30年度就職希望率 83.8%

キャリア意識を高めるため、キャリア開発の講義や各種就職関連イベント・説明会等への参加を積極的に促し、学生面談等の個別支援においても課員一丸となり支援にあたったが、目標値を未達成であった。留学生支援については担当者を明確にし、課員間での情報共有も行うことで就職希望留学生の割合はやや上向いたが、国家試験不合格者が多かったことが目標未達の大きな要因となった。国家試験に関係する学科(看護・理学・作業)の就職は年々難易度(第一希望での就職)が上昇しているため、学内での就職関連イベントを増やしているが、基礎学習支援のため新たに導入した kiui ドリルのほか、就職支援担当部署として国家試験合格にも寄

与することができる内容を検討していく。

(3) 岡山県内（高梁・岡山キャンパス）・兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）への就職率 40% 以上。

・大学が所在する地元の各団体等と連携し、地元事業所の情報および魅力を積極的に発信することで学生の地元就職への関心を高める。

⇒平成 30 年度岡山県内（高梁・岡山キャンパス）就職率 36.4%、兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）就職率 28.9%

地方大学として地方創成・貢献の観点から、地元就職の重要性を部署内で共通認識することで各キャンパスでの就職サポートにあたった。学生の地元就職への関心を高めるため、地元企業等を多く招いた学内就職面談会や連絡協力病院等就職説明会（岡山県内病院）を開催したが、目標値を未達成であった。売り手市場とされる現在の就職環境において、学生の就職先の幅が広がっている面もあるが、今後も地元の各団体等とも連携し、地元企業・施設・病院等の情報、住環境面で魅力等を積極的に学生へ発信していく。

5. .その他の事業

①空調機の稼働、節電、節水等の啓蒙を推進する。

⇒例年と同様に、省エネ推進活動として「環境マネジメントシステム (EMS)」活動を実施し、環境負荷削減の取り組みを実施している。

②挨拶運動、清掃活動、交通事故防止のための実技指導を中心としたマナー教育を推進する。

⇒挨拶運動と清掃活動をボランティア学生と F C 吉備国際大学シャルムの学生とが高梁駅前にて毎週月曜日の朝 7 時より約 30 分実施している。

交通事故防止に関する交通マナー教育として、硬式野球部の学生約 50 名を対象とした警察主催による二輪車の運転実技指導（雨天のため講習会に変更）を 5 月に実施した。

③岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパス、高梁キャンパスの学生間の交流を深めるため、学友会主体のイベントを企画し積極的な交流が行えるようにする。

⇒各キャンパスにおける学生間の交流として、高梁キャンパスで実施した「スポーツ大会」へ岡山キャンパスの学生約 50 名が各種目にエントリーし、試合を通じて交流を行った。また、南あわじ志知キャンパスで開催した「くにうみ祭 (学園祭)」へ、高梁キャンパスからは学友会執行委員・伊賀祭実行委員・留学生が、高梁市を PR するためのブース及び飲食物販売の模擬店への出店参加、岡山キャンパスからはストリートダンスサークルの学生がステージへ参加し、交流を行った。

④留学生と日本人学生との交流活動のイベントを増やし、充実を図る。

⇒今年度より留学生が増えたため、留学生と日本人学生とが交流する機会を増やし、交流旅行を年 2 回から 3 回で実施した。

1 1 月 25 日には、山陰の出雲大社と足立美術館、1 2 月 15 日には、姫路城と好古園への交流旅行を実施し、2019 年 2 月 9 日には香川県でのうどん作り体験と金刀比羅宮の見学を実施し、参加者による交流を深めた。

⑤各種行事、イベントに関して、在学生、同窓会、教員、事務職員が一体となった取り組みを行う。

⇒本年度も同窓会が、伊賀祭に模擬店を出店、南あわじ志知キャンパスの学祭「くにうみ祭」に合わせ同窓会関西支部会を開催した。

⑥私立大学研究ブランディング事業の研究の推進

順調にすすんでいる。

⇒半期終了時点での中間報告を作成し、ホームページ上に公開を行った。年度末に開催される研究部門自己点検・自己評価委員会総会において外部評価者を招いて2年目の進捗状況報告を行う予定にしている。

九州保健福祉大学

I. 平成 30 年度教育方針

今年度は本学の中期目標・中期計画（平成 28 年度～30 年度）の 3 年目の最終年にあたり、全学共通の目標である「国家試験合格等の専門資格の取得そして、自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につける。（学生目線）」および「入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てる。（教員目線）」の達成に向け、以下の教育方針を策定し目標達成に取り組むと同時に、来年度以降の中期目標・中期計画の策定につなげていく計画である。

また、今年度は、日本高等教育評価機構による大学機関別認定評価を受診予定であり、認定評価に向け万全の体制で臨むとともに、本学の内部質保障の向上に努めていく。

- (1) 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成できない。したがって、授業科目の一部にアクティブラーニングの積極的導入を推進する。ただし、本学は、国家資格を目指す学科が多く、受け身であっても膨大な知識の集積を可能とする系統講義も不可欠である。従って、アクティブラーニングの推進は、従来の系統講義を否定するものではない。
- (2) 本学でのアクティブラーニング導入により学生の考える力を高める重点教科として、全学科において卒業研究を指定しそのレベルアップを目指す。また、卒業研究のみならず基礎・専門教育の理解には国語力が求められるため、低学年での国語教育の取り組みが求められる。そこで、e-learning システムの積極的活用を全学で実施する。
- (3) 大学全体および学部学科、研究科ごとに取り組む教育・研究の内部質保証について、PDCA サイクルを用いた自己点検・自己評価体制の見直しおよび改善に取り組んで行く。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 本学にとって中途退学の防止は喫緊の課題である。中途退学の問題の根幹として学力不足が挙げられる。全学科において入学後のリメディアル教育の充実に取り組みでいく。特に、e-learning システム等を活用することによりレポートを書くための国語力向上を目指し、さらには専門書を読む力をつけさせる。また、出欠管理システムを活用し、授業を欠席しがちな学生を早期の段階で把握することにより、チューター及び学科の教員と連携して退学防止に努める。

⇒全ての教科の理解において国語力が不可欠であることから、全学科において国語力向上を目的とした e-learning システム（すらら）活用によるリメディアル教育を実施しており、一部の学科で、授業にも取り入れるなど積極的な活用を促した。入学直後、前期末及び後期末の計 3 回全学統一試験（国語）を実施し、学修成果の比較分析を行った。年間を通じての学修成果の分析を行うことで、次年度に向けたさらなる活用や学修成果の可視化への取り組みの検討材料とした。

また、出欠管理システムを活用し、3 回連続で欠席した学生についての状況をチューター、学科教員及び関係事務部署で共有しながら退学防止に努めた。

- (2) 昨年度の国家試験において、新卒者の合格率が全国平均以下となった学科もあることから、試験結果を分析し、各種国家試験合格率を全国平均よりも上位を目指す。さらに、余裕をもって国家試験対策に取り組めるように検討を行う。また、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行う。
- ⇒11種の国家試験のうち、新卒での全国平均を上回った試験は5種のみという結果であり、1期生となった生命医科学科の臨床検査技師は全国平均に対して25ポイント以上下回った。要因を分析し、合格率が高まるよう検討する。また、既卒生への対策として、希望者を対象とした国家試験対策講座受講生の受入れを継続して実施した。
- (3) 大学改革推進委員会とIR推進委員会及び学園IR推進室との連携により大学教育改革に取り組むとともに、学生の教育にあたって、全学的なFD・SD体制を構築し、FD・SD研修会を実施することで学生教育の一層の充実を図る。
- ⇒IR推進委員会において、全学生を対象とした学生生活の現状を把握し今後の支援の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、学生生活アンケート及び事務部門アンケートを実施した。また、「魅力ある大学を目指して～本学における学生教育を見直す～」と題して8月29日に全学的なFD・SD研修会を開催し、グループに分かれ課題を検討し、グループ毎に発表を行った。また、教育改革のPDCAサイクルの一環として、3月1日に自己点検・自己評価委員会総会を開催し、外部評価委員として延岡市教育長及び教育部長を招き、「3つのポリシーを踏まえた各学科の中期計画の報告」や「授業アンケート結果報告」等についての発表に対して評価を受けた。
- (4) 生命医科学部生命医科学科が完成年次を迎えたことに伴い、全学的なカリキュラムの見直しを行う。
- ⇒学部長及び学科長をはじめ関係教員と協議しながら大学共通科目の統一化を図るとともにカリキュラムの見直しを行った。また、法改正に伴うカリキュラムの変更が必要な学科については、関係教員と協議しながら見直しを行い、諸官庁に対して滞りなく届出を行った。
- (5) 南海トラフにより予想される巨大地震等の災害や火災事案等の有事に備えて、日頃から防災対策に取り組み、危機管理意識を高めるとともに、防災訓練等を通じて基本的な防災行動力を身に付け、地震・火災発生時に迅速かつ冷静沈着な対応が取れるよう防災力向上を図る。
- ⇒危機管理や防災意識を高める目的として、新入生にオリエンテーションでの防災教育及び携帯型の『大地震マニュアル』を配布した。また、11月1日には宮崎県民一斉防災行動訓練「みやざきシェイクアウト」に大学として参加し、12月6日には消防署の協力により防災訓練を実施した。
- 災害による帰宅困難学生や一時避難学生を想定し、約200名分の毛布、水、食料品等の防災備蓄品を整備した。

2. 通信教育関係

(1) 九州圏内の社会福祉士、介護福祉士等を養成する専門学校の学生や福祉施設の職員を対象とし、提携を行い入学者確保に努める。

⇒宮崎県社会福祉法人経営者協議会、株式会社ミツバファクトリー、日本リラクゼーション業協同組合と提携を締結し、入学者確保に努めた。

結果として宮崎県社会福祉法人経営者協議会の会員施設から5名の入学があった。

(2) 社会福祉士国家試験受験希望者に対して、通信教育部在学生のみならず既卒者及び通学制在生・既卒者を対象に「国家試験対策講座」を実施し、合格率の向上を目指す。

⇒例年どおり秋と冬に対策講座を開催し合格率アップに取り組んだが、結果に結びつかなかったため、対策講座の内容を検討し、より学生の意識向上を図れるものを取り入れ、合格率の向上を目指す。

(3) 授業アンケートを実施し、集計結果を通して必要なところは改善し、学生の満足度の向上に努めるとともに、引き続き学習相談会を開催し在学生のサポートを向上させる。

⇒授業アンケートはスクーリング科目において実施している。実習に関するアンケートも実施しており、アンケート結果に基づき、少しずつではあるか手続き等において改善している。

学習相談会も例年通り開催しており、サポートを充実させている。

また、視覚障害を持った学生の要望に対応した。

これらの取り組みにより平成31年度入学者は少人数ではあるが増加した。

3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

(1) 科学研究費助成事業等の申請について

積極的に文部科学省の科学研究費をはじめ、競争的資金制度に申請するように奨励する。

⇒本年度の新規の科学研究費助成事業の採択者は6件であり、継続者を入れると22件、ここ5年間は次の表のとおり横ばいである。今後はさらに採択者の増加を目指し奨励していく。

(単位：件)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
継 続	16	21	18	17	16
新 規	8	6	7	7	6
合 計	24	27	25	24	22

9月25・26日に平成31年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会を開催し、申請件数は50件で、新規採択は7件であった。

(2) 個人研究費について

引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施する。

⇒前年度に引き続き、研究業績に呼応した配分方法を実施した。

(3) 経費助成について

学内共同研究費の内訳として研究経費助成と地域創生事業経費助成を設け、研究活動の助成を行う。研究経費助成は教員の研究活動の推進を図り、地域創生事業経費助成は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を目的とする。

申請者に対しては公平に審査、配分を行い、研究活動並びに地域貢献活動を推進する。

⇒今年度の研究経費助成については、科研費の審査結果を中心に審査を行い、応募件数 12 件のうち 8 件を採択した。また、地域創生事業経費助成については、応募件数 3 件すべてを採択した。

(4) 外部資金導入の促進について

補助事業、委託事業、寄付事業など、外部からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を推進するとともに、それを通じて社会貢献に寄与する。

⇒今年度は、科研費の他、科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（CREST）2 件、受託研究 6 件、受託事業 7 件、学外共同研究 3 件、特別寄付 15 件を受け入れた。

4. 就職・進路指導計画

(1) 就職希望者の就職率 100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導重視の支援を通して学生の発達を促し、一人ひとりが満足できる進路選択ができるよう質の高いキャリアサポートをする。

⇒日常業務の中では、学生との対面個別面談に最も重点を置き、進路相談、履歴書・エントリーシートの添削指導、面接練習等を行っている。面談は予約制とし、4 月から 3 月までの個人面談件数は延べ 1,157 件（うち履歴書等添削 548 件、模擬面接 557 件、その他の相談 52 件）を実施した。

人事採用担当者と直接、話のできる就職面談会【社会福祉学部・動物生命薬科学科対象（8 月 9 日）、生命医科学部対象（9 月 1 日）、保健科学部対象（10 月 29 日、11 月 1 日）、薬学部対象（3 月 2 日）】を開催。また、薬学科 3 年生を対象とした薬剤師の仕事説明会も 6 月 30 日に実施。さらに、就職活動準備期間に入った 3 年生（薬学科は 5 年）を対象に、リクナビ・マイナビ・エムスリーキャリアによる就職支援イベントを開催した。

(2) エンrollmentマネジメントの一環として、低学年時より、個々が目指す資格の魅力や、有資格者としての将来像を鮮明に描かせることで、全学的な就労意欲の向上を図ると同時に、各学科のキャリアサポート委員会を中心とする全学教員と綿密に連携することで、卒業者に占める就職希望者の割合 90%を達成させる。

⇒企業の魅力や働き方を企業の若手社員より学生に直接伝えるとともに、学生の生の声や考え方を情報交換・意見交換できる場である「WorkCafe のべおか」を、全学部全学科対象に本学にて開催した。また、宮崎県内で活躍する女性社員との交流の場を設け、食事を楽しみながら意見交換を行う場「ひなた就活女子会」を全学部全学科対象に学内にて開催した。卒業者に占める就職希望者の割合は、80%であった。

- (3) 県内のあらゆる団体と連携し、地元企業の情報配信、面談機会の創造に努め、宮崎県内就職率 40%以上を目指す。

⇒宮崎県の産業人材育成・確保に向けた取り組みに関する意見交換を実施した。また、宮崎大学にて、みやざき COC+キャリアサポート部会を開催し、地元企業各種団体、高等教育機関との意見交換・情報交換の場を持った。学内においては、大型モニターを食堂前に設置し、宮崎県内で働く魅力や地元企業を紹介する映像を放映すると同時にセンター内に宮崎県コーナーを設置し、県内企業を広く紹介している。さらに、みやざき COC+との共催でパネルディスカッションを行った。

公務員試験受験希望者を対象に、宮崎県商工会議所連合会に協力いただき、「筆記試験対策及び、面接対策」「ケーススタディーについての説明」をセンター内で開催した結果、全学部で 12 名が合格することができた。

県内就職率は 28.6%であった。

5. その他の事業

- (1) 本学の独自色を強く打ち出しブランド化を推進するための研究を全学的な優先課題として位置づけ、「私立大学研究ブランディング事業」に申請する。

「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 1～5 についても積極的に申請する。

今年度 7 月に私立大学研究ブランディング事業として、事業計画書『生活者とその地域の健康寿命延長をプロデュースする大学展開』を文部科学省に申請した。「私立大学等改革総合支援事業」については、タイプ 1「教育の質的転換」、タイプ 5「プラットフォーム形成」について 10 月に申請した。

⇒「私立大学研究ブランディング事業」、「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ 1「教育の質的転換」、タイプ 5「プラットフォーム形成」について、いずれも、採択には至らなかった。

- (2) 国が進める「地方創生」を踏まえ、地域との連携事業を推進する。

主な取組として、宮崎県との連携により、引き続き東九州メディカルバレー構想の推進を図る。宮崎大学との連携により、4 年目をむかえる地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に取り組む。延岡市との連携により、受託事業である「発達支援システム実践事業」や「定住自立圏フィールド調査事業」を実施する。

⇒東九州メディカルバレー構想推進のため、臨床工学科において今年度も宮崎県と連携して『東九州メディカルバレー医工連携ステップアップ事業』に関する「パッケージによる産学官海外展開支援事業」を行った。

宮崎大学との連携では、事業 4 年目となる「みやざき COC+」については、定期的なサブコーディネーター（宮崎大学雇用）の協力を得ながら、各関連の部署内で対応した。

延岡市との連携事業としては、「発達支援システム構築事業」、「定住自立圏フィールド事業」に取り組んだ。

- (3) 延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

⇒例年どおり、延岡市教育委員会との共催により「のべおか子どもセンター」に取り組んでいる。

(4) 延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を年間 11 回と本学が開催する公開講座を 6 回開催する。

⇒延岡市から委託を受けて「のべおか市民大学院」を 11 回実施した。学外研修では、大分県竹田市で「たまご人形づくり体験」を行ない好評であった。

また、本学が開催する「公開講座」は、保健科学部の教員により 6 回実施した。計 138 名の受講生が集まり好評であった。

(5) 本学附属図書館では、平成 28 年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示を行っている。平成 29 年度は併せて「認知症サポーター養成講座」を図書館内ラーニングコモンズにおいて実施するなど、大学図書館と市立図書館の連携強化を図っており、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるべく今年度もこの事業を継続する。また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。

⇒本学附属図書館では、平成 28 年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示を行い、大学図書館と市立図書館の連携強化を図るとともに、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるべく、平成 30 年度もこの事業に取り組んだ。第 1 回の共同企画展示を、「認知症者の理解」をテーマに、8 月 4 日～8 月 26 日に、第 2 回は「認知症の予防」をテーマに、2 月 8 日～2 月 25 日にいずれも延岡市立図書館にて開催した。第 2 回の展示は特に本学所蔵図書についての市民の関心が高く、図書館間貸出 (ILL) の申し込みが増加した。

また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進した。学修や情報検索に利用率の高いタブレットパソコンの数を 17 台から 20 台に増加した。平成 30 年度はエリア別予約利用だけで、201 件、延べ 1,613 人の利用実績があった。最も多く利用されたのが授業、ついでゼミ学習会で、アクティブラーニングでの活用は定着しつつある。

(6) 平成 30 年度大規模地震時医療活動訓練への参加。実施日は 8 月 4 日(土)。これは、内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省 (DMAT 事務局含む)、国土交通省、海上保安庁、防衛省をはじめ、宮崎県、大分県及び熊本県他が参加して国が実施するもので、本学を DMAT 活動拠点本部及び SCU (Staging Care Unit : 広域医療搬送拠点) として、様々な訓練が展開される計画。(前回は平成 26 年 8 月 30 日に実施)

⇒8 月 4 日 (土) に行なわれた実動訓練において、本学は県北の訓練会場として「活動拠点本部訓練」「患者搬送訓練」が行われ、本学からは臨床工学科の教員、学生 (約 100 人) がボランティアとして参加した。学生からは、チーム医療を支える臨床工学技士を目指す者として貴重な体験ができたとの声があがった。

(7) 今年度本学は、日本高等教育評価機構による大学機関別認定評価の審査を受ける年であったので、大学だけでなく学園本部の協力を得て、「自己点検評価書」を作成し6月に提出した。

⇒これに伴う実地調査を10月23日(火)～24日(水)に受けた。

平成31年3月、「日本高等教育評価機構が定める大学評価機基準に適合している」との認定を受け、「改善を要する点2項目(内、1項目は『大学のみに通知する事項』)」に対し「優れた点9項目」と、高評価を得ることができた。

順正高等看護福祉専門学校

I. 平成30年度教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する

1. 受験生の増加を計り、入学定員を確保する
2. 中途退学者0名、留年生0名をめざす
3. 卒業生全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
4. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う
5. 講義・演習・実習へと進化する学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する
6. 主要項目の具体的活動を活発にするため、プロジェクトを立ち上げ、PDCAを実践する
 - (1) 国試対策
 - (2) 入試広報（オープンキャンパス再考）
 - (3) カリキュラム検討
 - (4) 教員研修検討

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

看護学科

国家試験対策プロジェクトチームを立ち上げ国家試験対策を一本化し、1年から3年を通して取り組み、受験者の100%合格を目指す。

指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする。

指導責任の所在を全教員が共有する。

学生の到達度と課題を指導の継続が図れ、指導の効果を出すために3年間の取り組み内容を一覧にし、結果の要因を各学年での取組をもとに分析し易くする。

⇒教員全員が4つ（国家試験対策、広報・PR、指導力強化、カリキュラム検討）のいずれかのプロジェクトチームに参加し、活動した。

特に、カリキュラム検討プロジェクトチームには全教員が参加し、2022年度のカリキュラム改正を見据えて、具体的に評価し準備を進めている。可能な範囲で開講時期の変更を行った。

全体では、シラバスを見直し、教授内容のマトリックス作成を目指し、重複・不足を確認するとともに、シラバスを作成した。

介護福祉学科

国家試験の100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。

学生の状況把握

⇒1回/週の学生面談を通し学習進度の把握に努め、個々の課題を明確にするようにした。

① 2年間を通して必要十分な知識・技術の習得

各領域の教員が連携し、各学年での取り組みを分析した。2年間で専門職として求められる水準に到達できるよう繰り返して学習できるように次年度に繋げていく。

(2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する

看護学科

⇒授業中の学生の状況を把握するために、可能な限り学外講師と情報交換しながら、学生指導にあたっている。

また、5月18日に講師連絡会議を開き、学外講師間と本校教員の情報交換を図るとともに、対策についての討議を行った。

介護福祉学科

⇒学外講師との連携を図るために、講義前後の時間に情報交換を実施した。

(3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る

看護学科

⇒保護者とチューターの信頼関係を構築するように努めている。教育後援会（本校、地方3会場）の個別懇談、戴帽式（1年）後の個別懇談の他にも、必要に応じて保護者との面談を行った。メンタル面での問題に対しては、精神の専門教員が面談をし、保護者とも連携をとりながら、支援を行った。

介護福祉学科

⇒学生を通して保護者との連絡を取り合い、保護者面談を行った。

(4) 学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を育てる。

⇒教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をした。また状況により、チューターのみでなく、学年団や役職教員が関り調整した。

(5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に行うと共に小さい成功体験を重ねるよう企図する

看護学科

⇒1年：・「語彙力」「読解能力」を身に着けるために、朝、放課後に個別学習支援を行った。授業の復習に重点を置き、調べる学習方法が習得できるように、同学力の少人数グループによる学習支援を朝、放課後学習会を開き個別指導を行った。

- ・解剖生理学と基礎看護学の強化のために、年度末に業者模擬試験を行う予定である。
- ・自己管理能力を高めるために、ファイルを使用し、在学中の目標を確認し、1年次より3年次へつなげていく。また、生活環境、習慣を把握し、整えられるよう支援している。

- 2年：・早期（4月オリエンテーション時）より必修問題に取り組み、週1回定期的に学力テストを実施した。合格ラインを決め、3回同様の問題に取り組みさせた。
内容は、授業進度や基礎看護学実習とリンクさせながら、模擬試験の抜粋やリメイクしたものを実施する。
学力支援の必要な学生を課外での学力対策では、学力別に、効果的な学習方法で専門教科のポイントについて指導した。
- 3年：・国家試験合格に必要な学習テーマを提示し、実習で出会う学習内容とリンクさせながらグループでチェックした。また、その内容を小テストし、知識の定着を図った。また、模擬試験後の事後指導と復習の徹底を行った。
国家試験形式の業者模試は6月、8月、10月、11月の計4回実施した。
成績状況から、学力強化チームを組み、学習環境を整備し、サポートした。
しかしながら、全国平均を下回る結果となったため、内容の見直し検討を行い次年度100%の合格を目指し取り組む。

1～3 学年を通してできていることは、リアルタイムに誉めるよう心掛け、成功体験を学生が実感できる関りをする努力をした。

介護福祉学科

⇒留学生：朝（30分）・放課後に日本語学習を実施した。専門学校独自の日本語授業を（2回／週）計画した。

1年：提出期限を設けた課題やミニテストを実施した。

2年：定期的に模擬試験を実施し学生の学力を分析し、個々の苦手分野に重点を置いた国家試験対策を実施した。

2. 研究関係

(1) 看護教育評価を行い、学術コンファレンス等への投稿に取り組む

⇒継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいる。

来年度は、学会に発表できるよう計画する。

(2) 学会、研修に各自2回以上は参加し、看護・介護教員としての能力・教育力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する

看護学科

⇒各教員が看護協会主催の教員継続研修会、各領域の学会、研修会、国試験対策セミナーに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努めた。

介護福祉学科

⇒各教員がセミナーや研修会に参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努めた。

(3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ

⇒看護学科・介護学科共通で、指導力強化チームを立ち上げ、研修会を実施した。

12月27日に北岡京子氏による「精神的な問題を抱えている学生への対応」を実施した。

3. 就職・進路指導計画

- (1) 看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する
- 看護学科
⇒進路ガイダンス4月・5月に実施した。5月19日は、ナースセンターから「最適な職場選択について」というテーマで説明を受けた。
進路希望調査（第三希望まで）をとって具体的な就職指導を行った。
- 介護福祉学科
⇒個別面談にて希望調査を行った。希望する就職先であるかの見極めを行うために、施設見学やボランティアに行くよう指導した。ハローワークと連携を図り、幅広い就職活動が行えるようにした。
- (2) 履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する
⇒進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導。
また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応（予約制）を行った。
- (3) 現場で活躍している先輩、施設長、実習指導者に体験等を話してもらい、プロとしての生き方、考え方から自分の将来をイメージし、就活の参考にする
⇒本校卒業生に体験や入職時の様子を話してもらい、就職後の自分がイメージできるようにした。
- (4) 学園主催の就職懇談会に参加し、参加した施設関係者との繋がりを大切にする
⇒平成30年9月14日に参加した。

4. その他の事業

- (1) 中期目標の進捗状況を適宜確認し、計画最終年度に備える。
⇒適宜、進捗確認を行い、未達成項目を確認してきたことにより、学年末のとりまとめができた。
- (2) 校舎及び設備の老朽化への対処、備品の更新を適切に行い、教育環境を整える
⇒実習用備品とその付属品の破損等をチェックし、適宜、教具の修理を行った。また、教室内の視聴覚機器の更新、図書閲覧室のPC環境の更新（3年計画）は8台中5台を更新し終えた。
- (3) 老朽化の進む学生寮（たかはし寮）を段階的に整備し、入寮者の増加を図る。
⇒共用箇所の環境整備を優先し、共同スタディールームを整備した。
また、玄関の靴箱を一新した。

九州保健福祉大学総合医療専門学校

I. 平成 30 年度教育方針

【 学校全体の目標 】

1. 看護学科は国家試験合格率 100%を維持する。
鍼灸学科は新卒、既卒ともに国家試験合格率で全国平均を上回る
2. 両学科ともに実習、国家試験を想定した講義を実践し、学力の強化を目指す。
3. 退学者を限りなくゼロに近づける努力を継続する。
4. 入学定員充足率 100%を維持する。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 看護学科

【今年度の目標】

1. 全国模試で全員が偏差値 40 以上を維持し、看護師国家試験合格 100%を維持する。
2. 成績不振の学生の面談(保護者面談も)や学習対策を実施しボトムアップを図る。
3. 各教員、看護学科全体としての教育内容の精選・充実をさせ教育効果の向上を図る。
4. 学生の就学上困難な徴候を早期発見し、早急に対応することで退学者を減少させる。
5. 事務室と連携し入学定員充足率100%以上を維持する。

【具体的な手立て】

1. 全国模試で全員が偏差値 40 以上を維持し、看護師国家試験合格 100%を維持する。
 - 1) 1 年次から学生の弱点強化を図り、個々の能力に応じた指導を徹底する。
 - 2) 各学年運営の指導計画を立案し、段階的に主体的に知識が習得できる具体的な方法を示す。
 - 3) 国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。
 - 4) 模擬試験終了時は成績下位の学生の学習支援を個別に行い成績向上に繋げる。
 - 5) 心身共に安定した状態で国家試験に臨むことができるよう支援する。

⇒学年ごとに指導案を立案し、教員一人一人が国家試験を考慮した実習指導、講義実践した。模擬試験の学校順位は概ね全国上位を維持したが、最下位の学生の偏差値は 40 に届いていないこともあったため、個別に対応し成績向上を図り、全員合格でき合格率 100%を維持できた。
2. 成績不振の学生の面談(保護者面談含む)や学習対策を実施しボトムアップを図る。
 - 1) 学生の学内での学習状況、生活状況を踏まえ、時宜を逸せず担任やチューターなどが面談し解決策を検討する。
 - 2) 講義中の状況や小テストなどの結果を踏まえ、必要時、早期に学習対策を行う。
 - 3) 定期試験や模擬試験後の結果を判断し、成績や学校での学習状況、生活状況に問題がある学生に対して本人、保護者を交えて面談し、解決策を検討する。

⇒学生の学内での学習状況、生活状況を教員間で情報共有するとともに、外部講師からも情報を得て学習支援や早期解決に向けて対応した。

3. 各教員、看護学科全体としての教育内容の精選・充実をさせ教育効果の向上を図る。
 - 1) 領域や専門分野を超えて教育内容を確認し合い、学生の習得状況を勘案しつつ、教育内容の精選・充実を図る。
 - 2) 学生の主体性、満足度、理解力を引き上げるために、教育方法などについて外部研修を受講する等して教育力向上を目指す。
 ⇒教員各自が自発的かつ計画的に研修会やセミナーに参加し、終了後は教員全員で復命書や資料を回覧し、知識を共有することにより、看護学科全体として教育力の向上を図った。

4. 学生の就学上困難な徴候を早期発見し、早急に対応することで退学者を減少させる。
 - 1) 学生の心身の変化を見逃さず、適切に介入できるよう早急に対策をとる。
 - 2) 看護することの楽しさややりがいを講義や実習を通して伝え、看護師になるという意欲が高まるようにする。
 ⇒教員間で学生の情報を共有し、成績やメンタル面で気になる学生に適宜対応するとともに、保護者との面談を随時行い問題解決に努めた。わずかではあるが退学率は減少した。

5. 事務室と連携し入学定員充足率100%以上を維持する。
 - 1) 県内の高校及び実習施設に本校の特色を理解してもらうため、事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに参加しPRする。
 - 2) 実習施設と連携を密にし、在校生だけでなく就職している卒業生の勤務状況等の情報を集めるとともに適宜対応することで本校の社会的評価や信頼度を高め、受験生希望者の増加に繋げていく。
 ⇒事務室と連携しオープンスクール及び学校紹介に繋がる行事や高校のイベントへの参加、地元TV局の取材対応など積極的にPRし、65人の入学生を確保できた。

(2) 鍼灸学科

【今年度の目標】

1. 新卒、既卒ともに国家試験合格率で全国平均を上回る。
2. 国家試験を想定した講義を実践し、学力を強化する。

【具体的な手だて】

1. 新卒、既卒ともに国家試験合格率で全国平均を上回る。
 - 1) 業者模試の得点率を5月から12月までの8カ月で新卒既卒含めて12%アップさせる。
⇒12月時点では8%アップ(新卒10%↑、既卒7%↑)であったが、1月時点では13%アップ(新卒19%↑、既卒4%↑)であった。
 - 1) 国家試験の教科毎の出題数や内容の変更を踏まえ、受験対策講義を実施する。
⇒教科毎の出題数や内容を踏まえ、講義メニューを作成し実施した。
 - 2) 特別生制度(既卒不合格者支援制度)を既卒生に周知させ受け入れる。
⇒既卒生に電話または書面で案内し、例年より大幅に多い10名が登録した。
 - 3) 模擬試験への参加を既卒生に強く促す。
⇒計画通りに国試直前まで参加した既卒生は5名であった。

2. 国家試験を想定した講義を実践し、学力を強化する。
 - 1) 能力別に個別指導の徹底をはかりながら、問題点を把握し早急に対応する。
⇒個別に学習計画を立案・実行し国家試験合格率100%(新卒)を達成することができた。

2) 問題の傾向を分析し、国試対策講義において弱点強化を図る。
⇒計画通り分析内容を活かした講義を実施したことで、新卒者全員合格に繋がった。

3) 学生が自信をもって国家試験に臨めるよう支援する。
⇒成績下位の者は伸び悩んだが、継続的に個別指導を行った結果、受験前には合格点を超える成績に達することができた。

2. 事務関係

(1) 事務室

【今年度の目標】

1. 入学定員充足率 100%超を目指す。
2. 入学志願者数を増加に転じる。
3. 退学者数の更なる減少。最終的に 0 を目指す。
4. 適正な予算執行
5. 両学科の国家試験対策の支援。看護学科は国試合格率 100%の維持、鍼灸学科は合格率全国平均以上

【具体的な手だて】

1. 入学定員充足率 100%超を目指す。
⇒入学定員 60 名に対し 65 名(108.3%)が入学した。

2. 入学志願者数を増加に転じる。
⇒本年度入試の志願者は 121 名(昨年度 110 名)となり、対前年比で 110%と増加した。

1) 事務職員全員で学校見学会前又は各入試の前後など効果的な時期に高校訪問を実施するとともに、高校教員と信頼関係を構築する。また必要に応じて看護教員に協力を求める。
⇒反復して高校訪問を実施した。看護教員も広報に努めた。

2) 進学説明会(業者説明会等)に積極的に参加する。
⇒年間 22 回参加するなど積極的に対応した。

3) 教員とともに教育的イベント等に積極的に参加し、看護学科をアピールする。
⇒宮崎県又は宮崎県専修学校各種学校連合会主催のイベント、高校から依頼されたイベント等に積極的に参加した。MRT 宮崎放送から「冬を暖かく」をテーマに取材を受けテレビ放映された。

4) ホームページを充実させる。
⇒ホームページのトップページを改善した。ストリートビューを採用し学校の魅力を発信した。

3. 退学者数を減少させる。
⇒本年度退学者数は 12 名(昨年度 17 名)と減少させたが、更なる努力が必要である。

- 1) 問題を抱える学生について教員と事務職員とで情報を共有する。
- 2) 学生及び保護者との面談の更なる充実を図る。
- 3) 教学面以外で問題がある場合、事務職員との面談の実施に努める。

4. 適正な予算執行

⇒経費節減に努めた。情報処理室及び教職員のパソコン(windows7)の更新(2年計画)、電灯のLED化、トイレの美化などの実施を計画し、計画どおり予算執行した。

- 1) 教職員の経費削減意識の醸成のため、毎月の教職員会議で執行状況を報告する。
- 2) 定期的に予算の執行状況を確認し、支出の削減に努める。

5. 両学科の国家試験対策の支援。看護学科は国試合格率 100%の維持、鍼灸学科は合格率全国平均以上

⇒看護学科は 2 年連続国家試験合格率 100%を達成した。鍼灸学科も開校以来初となる新卒 100%を達成した。

- 1) 両学科と学生情報を共有するとともに、積極的な窓口指導を実施する。